

埋文やまなし

2006.3.23

http://www.pref.yamanashi.jp/baucter/html/maizou/maizou_index.html



第23号

特集 整理作業での新発見!!

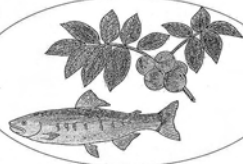
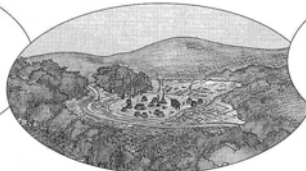
「整理作業」では、発掘調査によって得られた資料を整理・解析し、遺跡が営まれた当時の生活や遺跡をとりまく環境などを復元しようとするものです。このように解析された結果は、「発掘調査報告書」として刊行され、各市町村の図書館などで閲覧することができます。

今回はそんな新発見の一端を紹介します。

当時の環境



他地域との交流

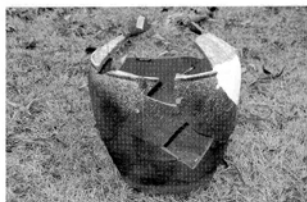


食生活

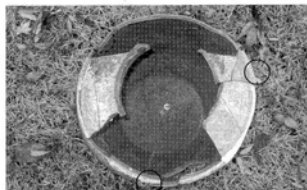
発見！長野県で作られた須恵器の壺！

足原田遺跡（山梨市）

平安時代の竪穴住居跡から、土師器の破片に混じって、須恵器の破片が約2.7m×1.4mの範囲から散在して出土しました。整理作業で、きれいに洗った遺物を接合したところ口縁部が欠けた須恵器の壺が完成しました。口縁部と胴部の一部は欠けていましたが、胴部の一番太いところから少し上には1条の凸帯が巡っています。そして耳状の突起が2箇所、凸帯をまたぐように付いています。これは、長野県の須恵器窯で焼かれた凸帯付四耳壺です。県内では、長野県に近い北巨摩地域での出土が多いことが知られており、盆地東部の国分寺周辺からも発見されています。このことから、足原田遺跡は平安時代にこの地域の拠点となった集落であった可能性が考えられます。



遺跡から出土した凸帯付四耳壺



なぜか三ヶ所にしか耳がありません…。

山梨の歴史はここまでわかった

洪水に埋もれた遺跡から、木製品がたくさん出土！

平田宮第2遺跡（中央市玉穂町）調査では、集落跡から井戸が見つかり、その部材としての木製品が多く出土しました。これらの木製品について、木の種類を調べたところ、すべて針葉樹であり、ヒノキやサワラが多くを占めるとの結果が得られました。ヒノキやサワラは耐久性が高く、加工が容易であることから、井戸の部材として選ばれ、使われたことが推測されます。



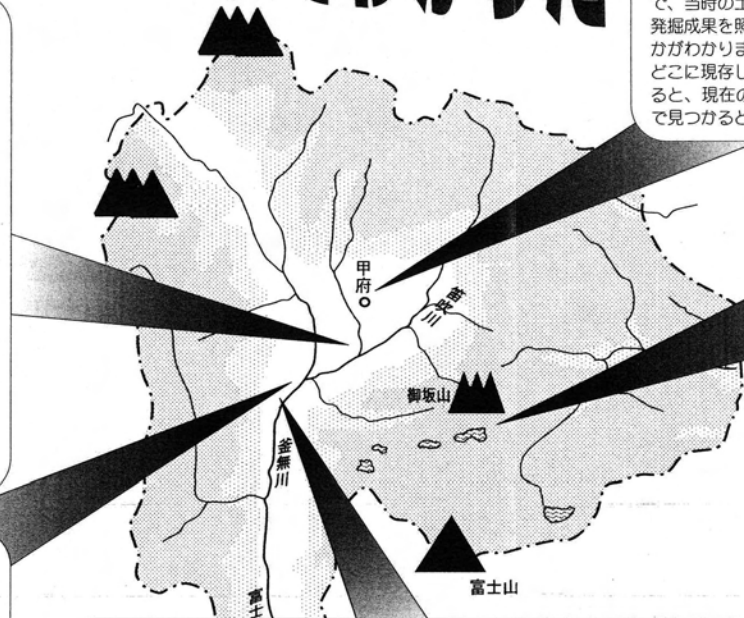
井戸の中から桶がみつかりました。

神社に残された鎧馬

鯉沢河岸跡（鯉沢町）鯉沢河岸跡では、鯉沢七面堂絵馬掛額を中心に江戸時代の箱原地区天神ウ滝普請工事について調査をおこないました。絵馬には、工事の中心となった専門家集団「石工」、川中に立ちこんで板で水流を弱めた「船頭」、監督する「御役人」とさまざまな職業の人々が、力を合わせて懸命に難工事に挑むようすが描かれており、物流の大動脈であった富士川舟運を維持するために当時の人々が大変な努力をしていたことがわかりました。



七面堂におさめられた水行直絵図



周辺の遺跡の調査成果を検討してわかること

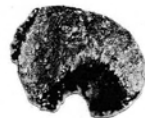
県指定史跡甲府城（甲府市）甲府城跡周辺は、江戸時代に城下町として発展した山梨の中心地で、当時の土地区画がわかる絵図が残っています。こうした絵図と発掘成果を照らし合わせると、調査地点が絵図のどこに該当するのかがわかります。このほか、周辺の調査成果から江戸時代の遺跡がどこに現存し、どのくらいの深さに埋まっているのかをまとめてみると、現在の地表面から深さ30～60cmで城下町遺跡が良好な状態で見つかるという傾向がわかりました。



甲府城と周辺の遺跡の一部

弥生人が食べていたもの

塚越遺跡（富士河口湖町）遺跡では弥生時代の赤く焼けた土が集中する場所からは細かく骨片や焼けた土が出土しました。これらの焼けた土を細かく観察していくと、弥生時代の人々が食べていたと思われるアフ・キビ等の炭化した胚乳（種の一部分）が検出されました。県内では石之坪遺跡（韮崎市）や村前東A遺跡（南アルプス市）の弥生時代後期の住居跡等からアフ・キビ等が検出されています。一方、塚越遺跡のような弥生時代前期末葉～中期初頭頃の遺跡での例は少なく、貴重な検出例と言えます。



焦土から見つかった胚乳

土の断面が教えてくれた

鯉沢河岸跡—口留番所跡—（鯉沢町）調査では江戸時代後半の石垣が、2～3mも深い場所で砂や泥に埋もれていました。ここは度重なる洪水で埋まったものです。

発掘調査では、一部の土層を残しておき、注意深く観察します。写真は、鯉沢口留番所跡の土の様子です。右側の土はとても固く、上半分には水平のシマが入ります。シマの線は、口留番所の広場面の断面です。薄い砂の層が挟まっていて、洪水があったことがわかります。また、その下は口留番所を造るため埋め立てた時の土のようです。いずれも江戸時代のもので、左側の土は、まったく性質が違い、ごつごつした石がたくさん入っています。明治時代になって家をたてるため、土地を広げた時に埋め立てた土のようです。このように、土の断面を調べることで、時代の新旧や土が積った原因、その時の環境などを知ることができるとのことです。



堆積した土の様子、遺跡が埋まっていく過程がわかります。

知ろう山梨の歴史！ 山梨の遺跡展2006 開催のお知らせ

平成17年度に山梨県内で実施された最新の発掘調査の成果を、遺物や写真を通してわかりやすく紹介します。

日時 2006年3月18日（土）～4月9日（日）

※3月22～27日は休館日

時間 午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）

場所 山梨県立考古博物館 多目的室

主催 山梨県埋蔵文化財センター

共催 山梨県立考古博物館

協力 甲府市教育委員会

韮崎市教育委員会

北杜市教育委員会

笛吹市教育委員会

中央市教育委員会

帝京大学文化財研究所

入場無料

平成17年度 資料普及活動の実績

資料普及課では、考古資料等を活用した体験型学習支援事業を実施しています。本年度は次のような活動を行いました。

☆出前支援事業

・土器作り・火起こし体験など (小学校5校)

☆資料貸し出し

・縄文土器・石器など (小学校1校・中学校3校・高校1校)

☆先生のための活用支援講座 (8月)

☆発掘体験セミナー (全7回)

☆遺跡調査発表会 (山梨県考古学協会と共催)

※資料普及課では、出前支援事業や資料貸し出しを受け付けています。

※考古資料をそろえた「貸し出しキット」を作りました。ぜひご利用ください!

→お申し込みは 山梨県埋蔵文化財センター
資料普及課 055-266-3016

ホームページ

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/maizou-bnk/index.html>

第18回 市町村埋蔵文化財専門職員研修会 開催報告



例年恒例となっている市町村埋蔵文化財専門職員研修会が、2月17日(金)、風土記の丘研修センター講堂にて開催されました。当日は筑波大学大学院教授の沢田正昭先生をお迎えして、「埋蔵文化財調査における最新の保存処理技術について—古代壁画保存のあり方—」というタイトルで、ご講演いただきました。

第2回埋文シンポ「川がつなぐ山梨の歴史」開催される

去る2月25日(土)13時より16時まで、県立図書館講堂において、「川がつなぐ山梨の歴史」が開催されました。

内容は、南巨摩郡鯉沢町に所在する鯉沢河岸跡の発掘調査事例報告や、当時の文献等からわかる富士川舟運の様子、甲州市勝沼堰堤を中心とした堰堤の事例報告、また県内で活躍する土木部の専門家から山梨を取り巻く川と砂防の現状などが発表されました。当日は100名を超える参加者がありました。



「下半年遺跡調査発表会」が開催される

3月18日(土)13時より16時30分まで、帝京大学文化財研究所にて、遺跡調査発表会が開催されました。本年度発掘調査が行われた5遺跡について、遺跡の概要が説明されました。

内容 ・山梨県の状況・梅之木遺跡(北杜市)・車居遺跡(笛吹市)

小井川遺跡(中央市)・円楽寺旧境内(甲府市)・ロタコー御勅使川飛行場跡(南アルプス市)

編集後記

まだまだ寒い日もありますが、日差しはすっかり春めてきました。今回は本年度整理作業の行われた6遺跡で、整理作業を通しての新発見を特集しました。発掘調査とはまた異なった調査方法を知っていただければと思います。皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。

maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

山梨県埋蔵文化財センター

埋文やまなし 第23号

発行日 2006年3月23日

編集 山梨県埋蔵文化財センター

発行 〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923

Tel 055-266-3016

印刷 株峯南堂印刷所